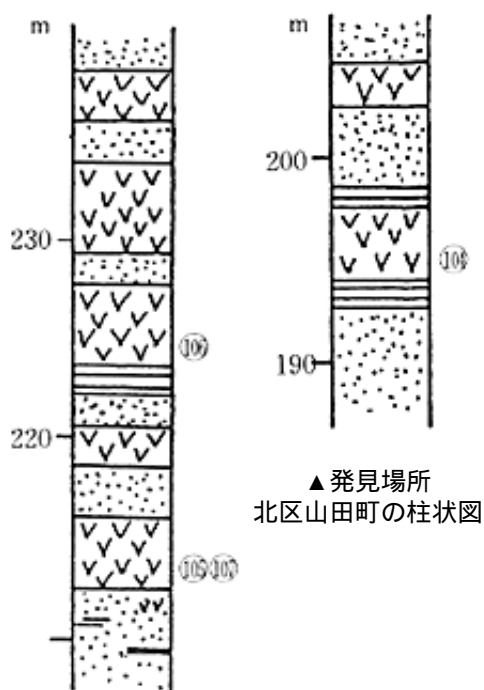


イチョウ属 Ginkgo sp./ トクサ Equisetum sp.



▲神戸層群ではめずらしいイチョウ属の化石。葉柄の部分がはっきりしないのが残念。



▲発見場所
兵庫区鶴台
の柱状図

▲発見場所
北区山田町の柱状図



▲トクサのさやのような節が目立つ、
茎の太いもの
(トクサ)



▲茎が細いもの
(トクサ)

トクサ

神戸層群から出るトクサには茎の太いタイプと細いタイプと2通りあります。地層面に対して垂直に入っているものもあり、これは生きていたとき立ったままの形で化石になったものです。

イチョウ属

葉は扇形で幅は3～5cmで現在のものより少し小さい。また、葉の縁にはのこぎり葉はなく、葉が裂けるようなことはない。葉脈は数回分枝して平行に走り葉の縁に達しています。

神戸層群では、その産出は非常にまれで、個体数も少ない。中生代から出現し広く北半球に分布したが、第三紀末に多くの地域で消滅していきました。

現生のイチョウは中国中部だけに生き残った貴重なものです。街路樹・社寺の境内などでよく見かけるイチョウは中国から移入されたものです。

白川累層上部と藍那累層より産出している。



デジタル化 神戸の自然シリーズ 16 神戸層群の化石を掘る メニューへ